

[各分野から]

三重大学のリカレント教育について†

青木 雅生*

三重大学リカレント教育センター*

1. はじめに

2022年4月に新しく設置した三重大学リカレント教育センターについて、その背景、内容、そして地域における役割について述べる。

2. 人件費から人的資本へ

企業が抱える人材の価値を示す「人的資本」の開示が世界で進んでいる。人材を企業価値の向上につながる資本ととらえ、性別や国籍などの多様性、雇用形態別の賃金水準、さらには育成方針などを開示することで人材への投資に積極的な企業であるかを投資家などが判断しやすくなることが求められている。この点では欧米が先行しており（『日本経済新聞』2022年4月20日付）、投資家向けという意味もあるが、従業員のモチベーションを維持し高める狙いも併せ持っている。日本でも2023年3月期決算以降の有価証券報告書において人的資本情報の開示が義務付けられることとなった（『日本経済新聞』2022年11月28日付）。

人への投資の先行事例などを情報交換する官民共同の「人的資本経営コンソーシアム」が2022年8月に設立された。参加企業は320社にのぼり、どのように人的資本経営を行うのかなど大手の企業であっても戸惑いは隠せず、このような経験を踏まえた情報交換などの場が今後の日本の人的資本経営を発展させる力となると見込まれる。

以上のように、人材は、人件費という名のコストではなく、適切に投資をすることで企業価値の向上につながる資本である、という認識の広がりや取り組みの強化が急速に進んでいる。ここまで指摘してきたことは、2020年に経済産業省より出されている「持続的な企業価値の向上と人的資本に関する研究会報告書」いわゆる「人材版伊藤レポート」でも詳しく示されている。

3. リカレント教育とは

人的資本経営といってもその内容は多様である。開示する情報として例示されているものだけでも、女性管理職比率、男性育休取得率、男女間賃金格差といった多様性（ダイバーシティマネジメント）を数値的に表しやすいものから、福利厚生も含めた社内環境整備の方針や人材

育成方針といった企業の将来的な持続可能性に向けた投資ともいえる内容などを含んでいる。

その中でも、人的資本として投資をして育てるということにおいては、従業員の質的向上としての能力開発ともいべき教育・育成が中心的な課題となる。この点において現在最も注目されているのが「リカレント教育」である。一般的にリカレント教育とは、学校教育を終えて社会に出た個人が再び教育を受ける循環型・反復型の一種の生涯教育のことである。経済協力開発機構（OECD）が1970年代初頭に提唱したものであるが、そのOECDの2005年のレポートによれば、リカレント教育には個人の生産性を高めイノベーションや雇用機会を創出する効果があるとされている。

人口減少社会となっている日本における労働力人口の量的拡大はもはや望めない中、労働力の質的向上によって乗り越えていくことが求められている。同様に、DXによって不足する労働力を補おうとしている面もあるが、このDX化の進行によって、既存の仕事が変化あるいは不要となる可能性もあり、新しく生まれる仕事への人材の移動が求められる中、むしろミスマッチが顕在化することが課題となっている。

リカレント教育と並んで「リスキリング」も注目されている。リスキリングとは、新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキル的大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する（させる）ことである。仕事上の新たなスキルを習得することであるといえる。人材不足が特に言われているDX人材の育成を念頭に、このリスキリングのプログラムが展開され始めている。

4. 三重大学リカレント教育センター

三重大学は、県内唯一の国立総合大学として、2004年の国立大学の法人化以降、「地域共創大学」を標榜し、地域社会の発展や活性化に向けた課題解決等に取り組んできた。激変する社会に対応し地域を活性化するためには、地域の企業の従業員等が新たな知識やスキルを獲得することが必要不可欠である。この考えに立ち、2022年4月、これまでの地域共創の実績を基盤としつつこれをさらに推進するため、社会のニーズに合ったリカレント教育を

提供するための「三重大学リカレント教育センター」を設置した。

同年 10 月には、2030 年に向けた三重大学の活動目標となる「三重大学ビジョン 2030」が策定された。同ビジョンは「三重の力を世界へ 世界から三重へ 未来を拓く地域共創大学」と打ち出し、「三重モデル地域創生」として「地域社会と本学がともに発展する未来づくりをめざす」ことをコンセプトとしているが、リカレント教育については、2030 年までに学部・大学院といった既存の教育組織に並立した教育組織とする方向性を示しており、活動の具体化を進めることとなっている。

企業や自治体、個人からの学びに対するニーズは確実にある中で、大学の持つ教育リソース（教員、幅広いレベルの授業コンテンツ）は、社会人の学び（直し）に役立つ、という問題意識のもと、レディーメイドプログラムとオーダーメイドプログラムの 2 種類のリカレント教育プログラムを構築している。

レディーメイドプログラムは、社会的にも要望の多い DX/ICT などの分野についてプログラムを開発して提供する。すでにその第一弾として「DX による中小企業の事業再構築・新事業創出を担える人材の育成プログラム」

（文部科学省・DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業）を提供しており、受講した方々からは内容の充実度とともに意欲的に学び続けられたとの感想をいただいている。三重大学大学院地域イノベーション学研究科の博士後期課程の修了生を擁する三重県内の企業との協力によってこのプログラムを展開してきた。「大学が提供するプログラムらしさ」として、データ解析ツールの高度な使い方（すなわち DX のスキル）と課題発見・解決力（すなわち本学が定義するところのプロジェクトマネジメント力）を組み合わせで提供した。この「スキルをつける学び」+「(大学の) 課題発見・解決のための学び」が効果的であったと考えられる。異業種交流的な面も持ち合わせていたことで新しい発見も生まれ、大学という場を生かしたプログラムになっているといえる。これらを踏まえ、今年度も継続して開講をしている。三重大学はこれまでも提供してきた優良なリカレント教育プログラム（防災塾、サイレッツ＝科学的地域環境人材養成）もあり、得られた成果などを踏まえ、さらなる充実を図っていく予定である。

一方で、激変する社会において、企業や自治体の「組織としてのニーズ」はそれぞれに異なっており、リカレント教育プログラムに対する個別のニーズにマッチしなければ大きな効果は期待できない。それゆえ、大学が必要と考える教育だけでなく、社会から必要とされる教育を提供するため、リカレント教育にはオーダーメイドプログラ

ムの構築が必要不可欠であると考えている。企業や自治体が個別に必要とするスキルや知識を聴き取り、要望に沿ったオーダーメイドプログラムを提供することを目指している。三重大学の最大の強みであり貴重な財産である授業コンテンツと教授陣を最適の組み合わせにして教育プログラムをアレンジすることによって、新たなスキルの獲得、専門分野の学び直し、ある分野の最先端情報の提供など、様々な要望にできるだけ柔軟に応えようとしている。2022 年度において、三重県内に事業所を構える企業との間で長年にわたって構築してきた関係を基盤に、オーダーメイドプログラムを試験的に行ってきた。単なる知識やスキルの向上だけにとどまるのではなく、様々な角度からとらえられる視野と思考力など柔軟な発想を引き出すことにつながる成果も見られ、新しい事業などを生み出していく基盤づくりに一定の効果が見込まれるのではないか、と暫定的に評価している。こうした成果を踏まえ、三重県内の多くの企業にオーダーメイドプログラムを広く展開していくことを構想している。その広がりをさらにリカレント教育修了者コミュニティの整備へとつなげ、リカレント教育への修了生の参画および他社・他業種の受講者が交流し情報交換できる場の提供へと発展させていきたいと考えている。

5. 地域人材の育成

三重大学がリカレント教育を三重県内の企業や自治体などに提供しようとするのは、地域共創大学を標榜するが故である。三重県の企業や自治体等で働く多くの方々の知識・スキルをはじめとする様々な可能性を、大学のもつ資産を活用して高めていくことが、三重県の地域社会・地域経済の活性化につながっていくことであり、三重大学が積極的に担っていくべき存在意義の一つであると考えている。

三重県内の労働力人口が急に増加に転ずることはない中、すでに働いている貴重な人材を生かしていくことが、企業や自治体などの業績や成果を高めていくために求められていることである。地域人材を育成していくことは、個々の企業や自治体の責務ではあるが、大学が提供するリカレント教育を活用することで連携していくことが、地域の未来を切り開くことであると考えている。

† AOKI Masao* :About Recurrent Education at Mie University

* Recurrent Education Center, Mie University, 1577 Kurimamachiyacho, Tsushi, Mie, 514-8507 Japan